

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 19 章 28～44 節 ＞

1 この出来事の数世紀前の預言、ゼカリヤ書 9 章 9 節に注目。

イエス様がこれから起こることを言い当てられたのかと思う不思議な話です。しかし、この話は、イエス様の予知能力を問題にしているではありません。紀元前 2～3 世紀に書かれたゼカリヤ書 9 章 9 節にこうあります、「娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者。高ぶることなく、ろばに乗って来る。雌ろばの子であるろばに乗って」。重要なことは、この預言の成就者が自分なのだといエス様が示しておられるということです。多くの弟子たちはそのことを確信していました。なぜなら、イエス様がなされた数々の奇跡を見たからです (37 節に注目)。もし、神様がイエス様を私たちの救い主として本当に送られたなら、それは全ての人にとって大事なことです。よって、聖書がイエス様について伝えようとしている内容をできるだけ正しく知り、それから判断を下す必要があります。イエス様が取られた行動の意味をさらに探りましょう。

2 元になるこの預言と重ねて見えて来るイエス様の行動の意味は？

イエス様が誰も乗ったことのないろばの子に乗ってエルサレムに入られた行動は、ゼカリヤ書の預言から分かります。イエス様は、①神に従う王として勝利を告げるために来て下さったこと、それも、王の勝利の凱旋は軍馬に乗ってなされましたが、ろばの子に乗ってということは、②戦いではなくて平和な手段で勝利される王であることを意味していました。「誰も乗ったことのない子ろば」(31)と強調されているのは、それが神様による特別な出来事であることを示しています。それはこの後イエス様が十字架の死によって成し遂げられる、普通勝利とは真逆に思える特別な勝利を意味していたわけです。

3 イエス様のご自身のことが王と呼ばれるのを止められない！

弟子たちも、この時、イエス様の特別な勝利をまだ十分理解しないまま、ただイエス様こそが神様の約束の救い主であると歓喜の声を上げました(37-38)。しかし、イエス様はそれを止められませんでした(39-40)。「色んなことについてまだまだ無理解があろうとも、イエス様こそが神様の約束の救い主、私たちの真の王、このことを信じて歩むことがまず大事」、イエス様を通して神様はそう示されたのでしよう。私たちもこれを受け入れて歩み続けて行たいと思います。